

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 木屋瀬 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

木屋瀬 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、漢字を正しく書いたり、主語を捉えたりする基本的な内容の定着に課題があることがはっきりした。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・登場人物の相互関係を捉えながら読む問題は、全国正答率よりも高い正答率だった。	
	努力が必要な問題	・文の主語として適切なものを選択する問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っているが、無解答率は低い。 ・自分の考えを整理しながら書く力を問う問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的に応じ、中心となる語や文を文から読み取る問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、整理して書く問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っており、小数の問題や角の大きさを求める問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・分数の除法の計算や日常生活の中で必要となる時刻を求める問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を問う問題の正答率が低かった。	

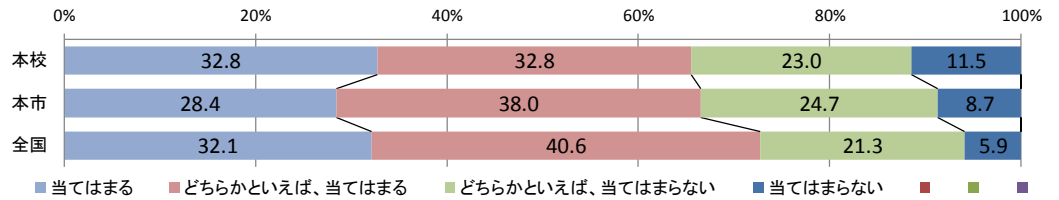
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、ほぼ同等である。無解答率が全国平均に比べると低く、記述式の問題に対しても粘り強く自分の考えを書くことができるようになった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・概数や概算を活用して目的に応じて計算したり判断したりする問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・割合や単位量あたりの大きさを活用して計算したり判断したりする問題の正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、エネルギーに関する問題に無解答率が高く、誤答も多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・メダカの雌雄を見分けたり生物の成長に必要な養分の取り方について考察する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に、うまくいかなかった原因を考える問題の正答率が低かった。	

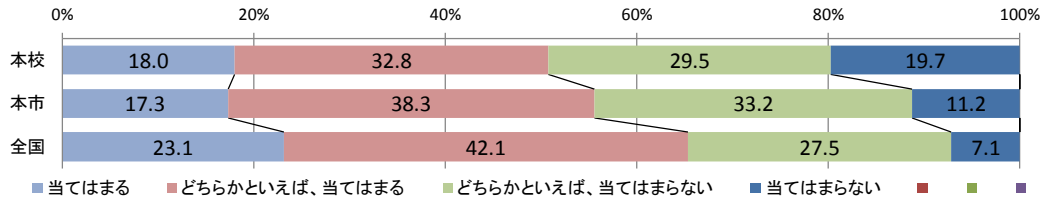
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

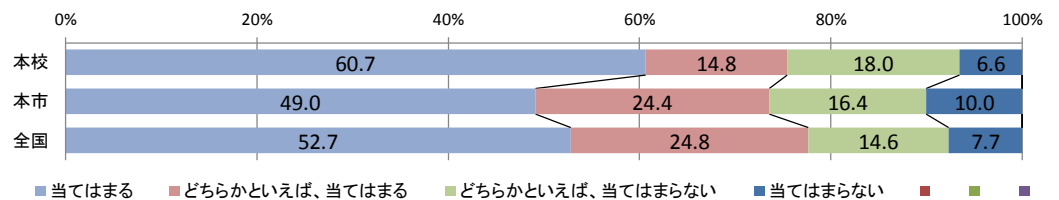
55
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。



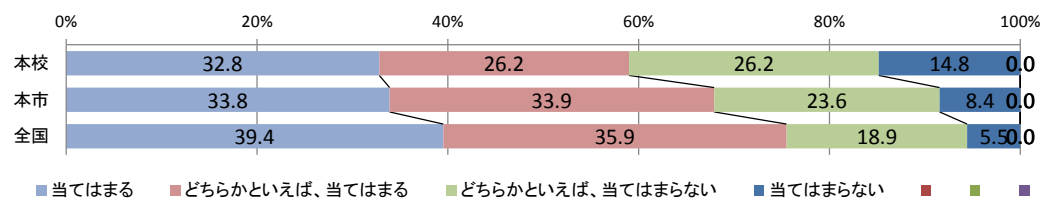
53
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



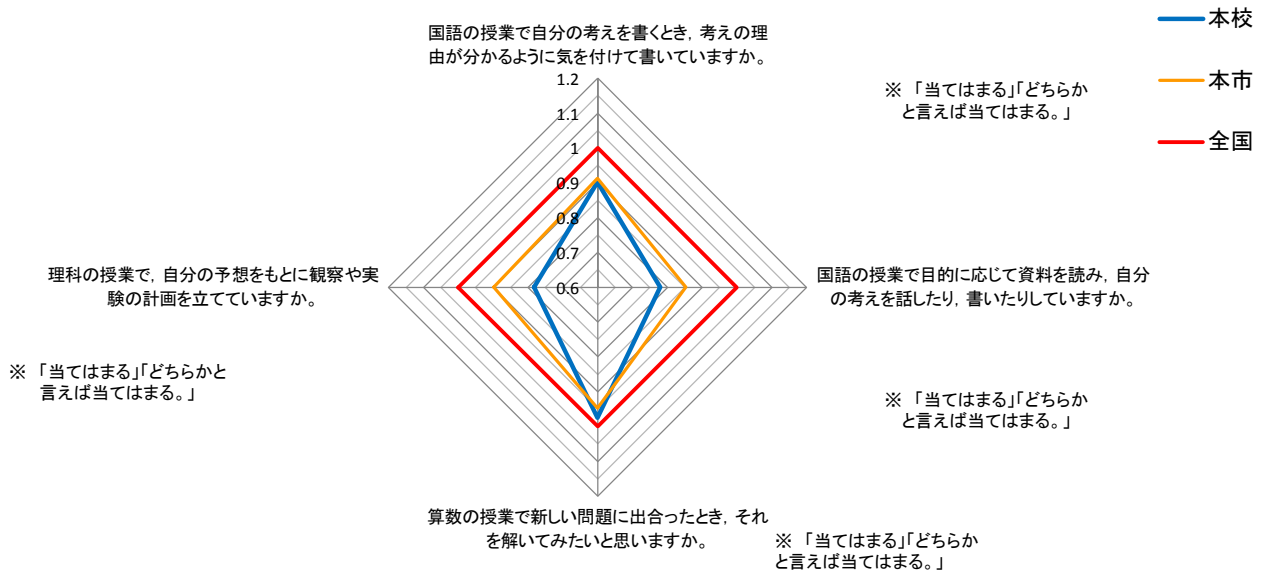
61
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



79
理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・国語科の学習では、文章を読んだり書いたりすることに対して苦手意識をもっている児童は少ない。しかし、目的に応じて資料を読んで、自分の考えを話したり、書いたりしている児童は少ない。また、自分の考えを書く時に理由が分かるように工夫して書いていない児童も多い。今後は、テーマをもとに自分の考えを詳しく書いたり、相手に分かりやすく伝えることを意識して発表したりする授業を行っていく必要がある。

・算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思う児童の割合が高いことから、全校で算数科学習の学力向上に取り組んでいる成果が見られる結果となっている。また、問題の解き方を、いろいろな方法で考え、書ける児童が年々増加し、全国平均を上回っている。今後は、その考えを相手に分かりやすく説明する話合いの時間を充実させていく必要がある。

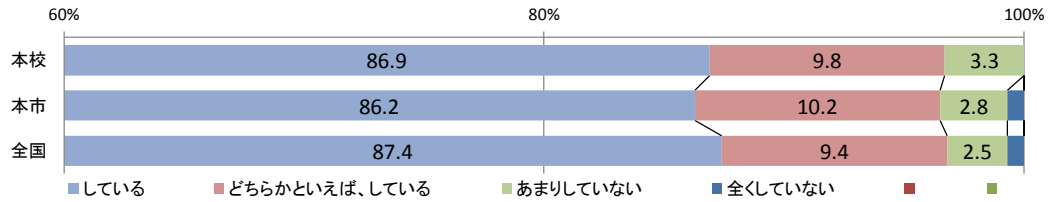
・理科の勉強が好きという児童は、全国平均を大きく上回っている。しかし、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の結果から分かったことを考えたりしている児童の割合は低い。今後は、観察記録や実験結果などのデータと現象とを関係付けて考察したり、言葉でまとめて説明したりするなどの学習活動を充実させる必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

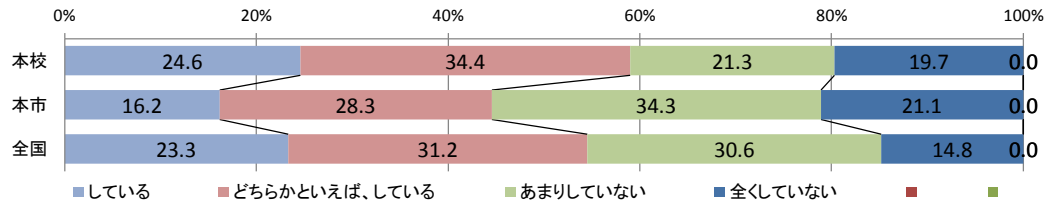
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

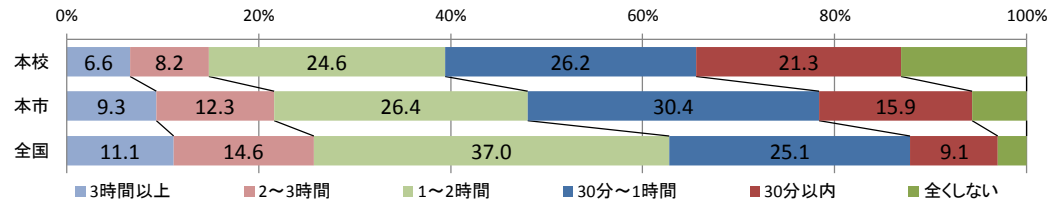
21
家で、学校の宿題をしていますか。



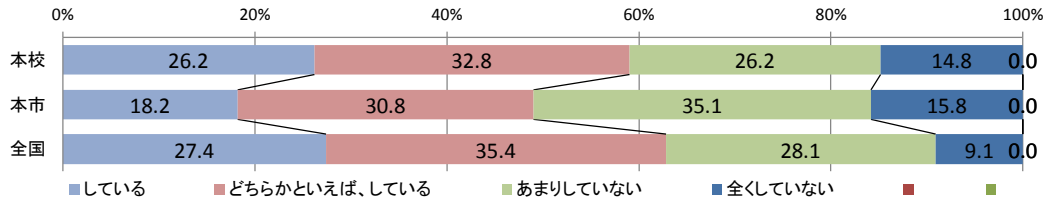
23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



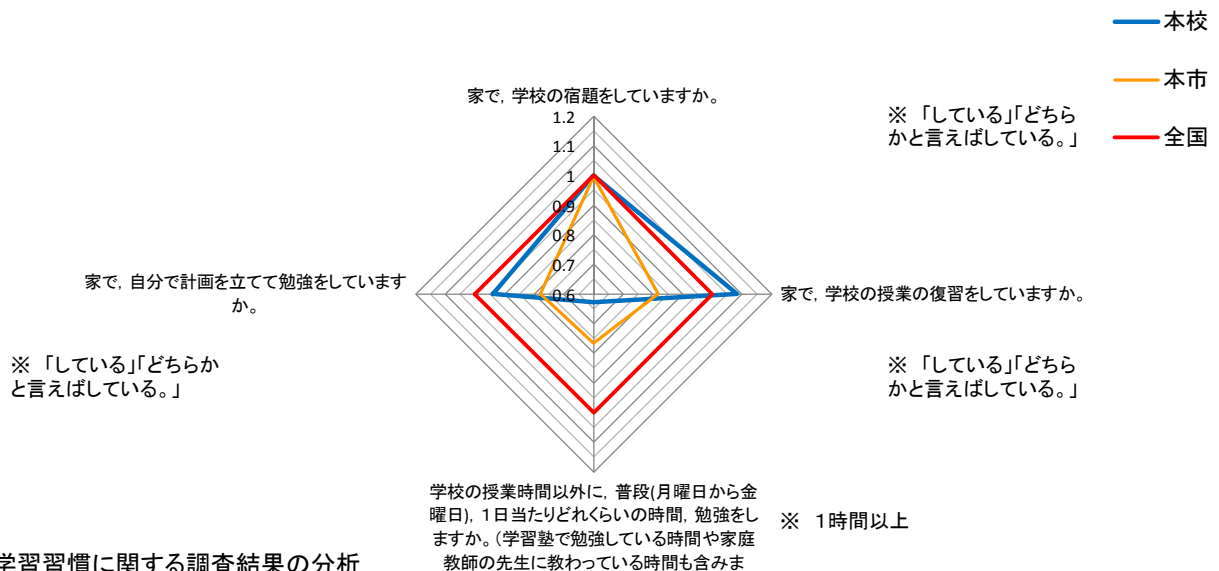
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



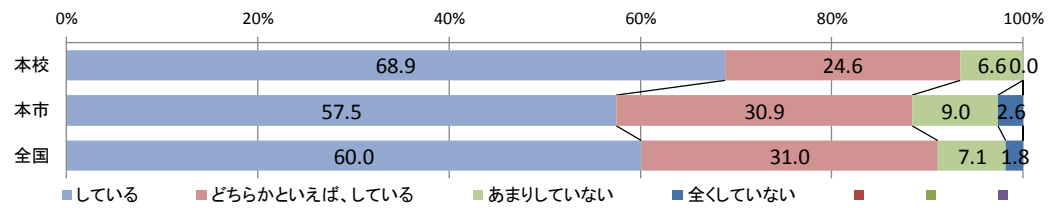
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・家で宿題をしている児童の割合は高く、「宿題を必ずする。」という習慣は定着している。また、学校の授業の復習をしている児童の割合も、全国平均を上回っている。宿題以外に学習する児童が増えてきている。
- ・自分で計画を立てて勉強している児童の割合は、全国と比較すると低く、一日あたりの家庭学習の時間は、全国平均を大きく下回っている。今後は、(学年+1)×10分という家庭学習の時間を目標に、家庭学習チャレンジハンドブックを有効に活用、点検するなどして家庭学習の具体的な取り組み方や計画の立て方などを継続して指導する必要がある。

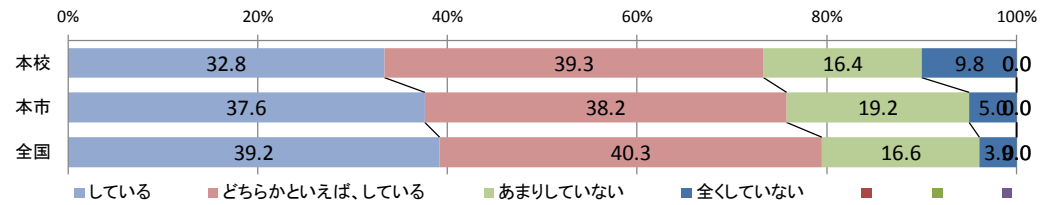
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

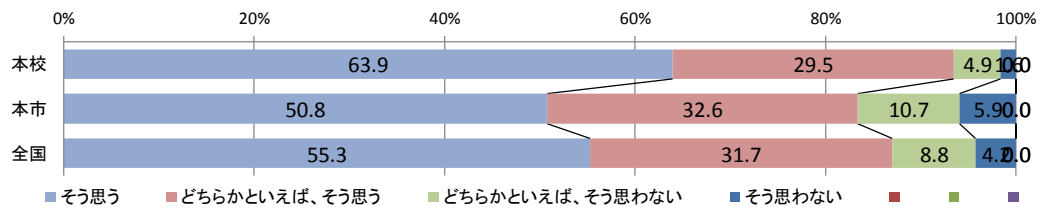
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



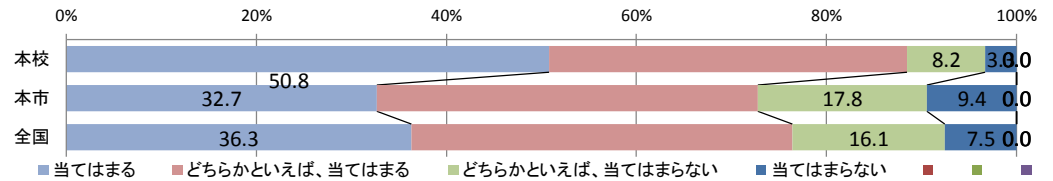
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



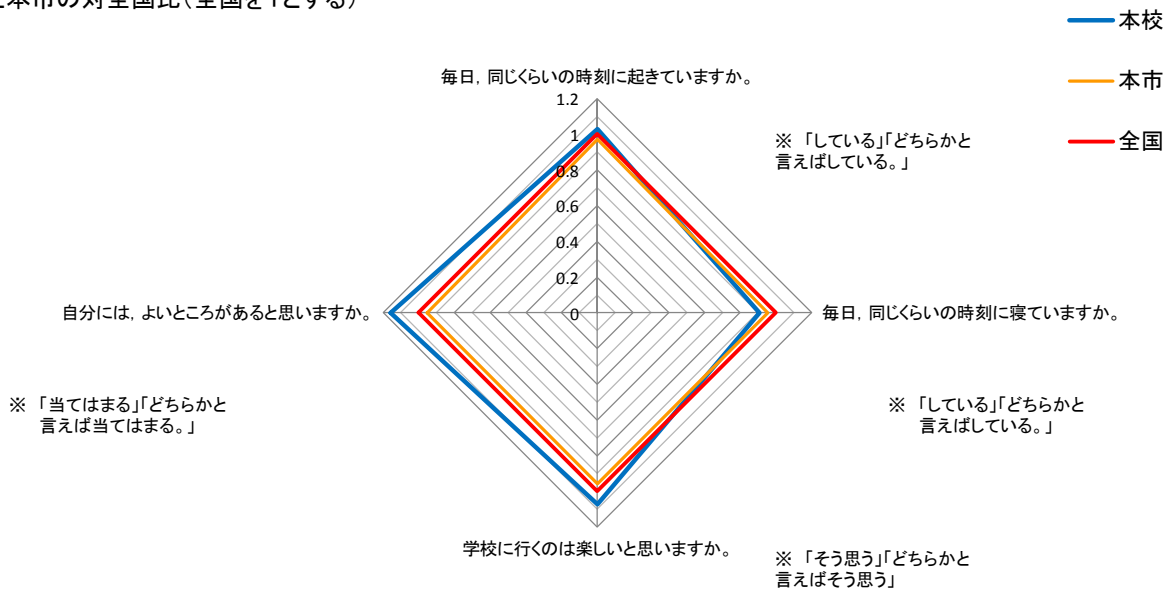
24
学校に行くのは楽しいと思えますか。



6
自分には、よいところがあると思えますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・毎日同じくらいの時刻に起きている児童の割合や毎日朝食を食べている児童の割合は、高くなっている。「早起きをして、朝食を食べ、遅刻せずに登校する。」という意識は、児童や保護者に定着してきている。しかし、依然として同じくらいの時刻に寝ている児童の割合は低く、若干就寝時刻が遅いことが課題である。

・学校に行くのは楽しいと感じている児童や自分には、よいところがあると思っている児童の割合は、年々増加しており、全国の割合を上回っている。間違っても大丈夫という安心感を児童にもたせる支持的な学級風土づくりに取り組んだり、普段の生活や学習で友達のよさに目を向ける活動に取り組んだりしている成果が見られる結果となった。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 確かな学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習(読み、書き、計算を中心に曜日を決めて)やチャレンジタイム(5校時開始前の10分間の帯取り)を設定し、全校一斉に実施。
 - ・算数科における各学年の重要単元については、チャレンジタイムにおいて集中的に指導するよう、国庫少人数、児童支援加配、教務、教頭、校長等を動員し、基礎・基本の定着を図る。
 - ・チャレンジタイムや宿題、隙間時間に活用できるように、国語科、算数科の基本問題や配信問題、WEB問題等をまとめたプリント集を作成し、各担任に配布。
- 過去問題やアシストシートの活用
 - ・アシストシートや過去問題を少人数指導教員等が印刷し、全学年10枚程度、冬休みや春休みの宿題とする。
- 学習ルール(授業5則)の定着
 - ・木屋瀬中学校校区小中一貫連携教育で作成した「授業5則」を学級に掲示し、児童に意識させることで学習ルールの定着を図る。
- 算数科の主題研究を通じた基礎的・基本的な内容の定着
 - ・チームティーチングによる2人体制で、きめ細かな指導にあたる。児童に問い返ししながら発言をつなげていったり、板書で可視化を図ったりするなど、教師が一方向的に説明するのではなく、児童主体の学習になるように努める。
 - ・主題研修や若年研修など、学力向上に関する職員研修を定期的に行い、成果や課題を把握し共通理解を図り、課題がある児童への支援を行う。
- 「書くこと」「伝えること」の習慣化
 - ・授業の中で自分の考えを書く時間を必ず設ける。話し合いの時には、考えを整理して説明したり、説明する順序を考えたりするなど、相手を意識しながら話すことができるようにする。また、授業の終わりに「今日の学習で分かったこと、大切なこと」をポイントに振り返りを書く活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 小中一貫・連携教育推進委員会で作成した「家庭学習の手引き」「学習ルール」「生活ルール」の活用
 - ・「家庭学習の手引き」「学習ルール」「生活ルール」を教室に掲示する。家庭学習の時間の目安など、家庭学習に関する指導を児童に行うとともに、懇談会等で保護者に働きかけ、家庭学習(宿題以外の学習)の習慣化を図る。
- 家庭学習に取り組む児童の育成
 - ・「子どもひまわり学習塾」の開催
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、担任が家庭学習の方法を指導し、定期的確認を行う。
 - ・各学年に応じた「自学ノート」の活用
 - ・「家庭学習マイスター賞」への応募の啓発
 - ・家庭学習のがんばりを紹介する場の設定(各学級で、「家庭学習がんばりコーナー」を設置したり、学校全体で、夏休み作品展の時に「家庭学習コーナー」を設置したりする)
- 学習や家庭生活習慣に関する調査結果を保護者へ周知
 - ・全国学力・学習状況調査の結果や課題を学級懇談会や各種便りで説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
 - ・生活実態アンケートの結果や課題に対する取組を懇談会や各種便りで保護者に説明し、協力体制を整える。
 - ・携帯電話やスマートフォンなどによるSNSトラブルや学力に与える影響について、保護者が集まる機会に話をしたり学校だよりで伝えたりする。また、マナーキッズ講座や規範教育を実施する。